

交通アクセス



自動車	
東京	20km 30分
浦和	260km 3時間
福島	50km 35分
村田	67km 55分
寒河江	9km 15分
山形	67km 45分
仙台	100km 2時間
山形新幹線	2時間30分
JR左沢線	45分
山形新幹線	2時間
東北新幹線	1時間
仙山線	1時間
飛行機	
東京	JAL 1時間
大阪	JAL 1時間15分
山形空港	30分
自動車 (ETC 車載器搭載車)	
東京	20km 30分
浦和	260km 3時間
福島	50km 35分
村田	70km 58分
寒河江	6km 9分
山形	70km 58分
山形新幹線	2時間30分
JR左沢線	45分
山形新幹線	2時間
東北新幹線	1時間
仙山線	1時間

左沢の宿泊施設

- あてらざわ温泉湯元旅館 住所：大江町大字左沢 10-2 / TEL：0237-62-2064
- 西田屋旅館 住所：大江町大字左沢 401 / TEL：0237-62-2337
- 玉川屋旅館 住所：大江町大字左沢 1014 / TEL：0237-62-2061
- 大江町型住宅宿泊体験 住所：大江町大字藤田 831-40 / TEL：090-4311-4126

観光情報



大江のひなまつり

最上川舟運により運ばれた時代雑子を国の重要文化的景観に選定された町並みのなかで見ることができます。



水郷大江夏まつり灯ろう流し花火大会

県内最古の歴史を持ち川面に浮かぶ数千個の灯ろうと3ヶ所から上げられる花火の饗宴は大江町ならではの光景です。



大江の秋まつり

囃子屋台や奴、シシ踊りなど町内に受け継がれる伝統芸能が一堂に会します。



味祭の宴

毎年、大江町の地酒「大江錦」の新酒の完成に合わせて開かれ、地元の料理と地酒を味わえます。

詳細は大江町観光物産協会ホームページをご覧ください → <http://oekanko.jp/>

【お問い合わせ】大江町教育委員会 教育文化課（歴史文化係）
〒990-1163 山形県西村山郡大江町大字本郷丁 373-1 TEL：0237(62)3666 / Mail：shakai_k@town.oe.yamagata.jp

未来へ贈る、最上川とくらしの営みの風景

国選定重要文化的景観
最上川の流通・往来及び左沢町場の景観

山形県大江町

最上川の流通・往来及び左沢町場の景観

左沢の景観は、ここで営まれ続けたくらしを伝える文化的景観です。

大江町左沢の町場は、最上川舟運の河岸集落と城下町に起源を持ちます。左沢には最上川舟運の河岸があり、流通・往来の結節点として大いに賑わいました。

一方で中世に左沢楯山城、近世に小漆川城が築かれて、城とともに町が整備されます。その後、交通の変化や大火後の復興があり、今の景観が形づくられました。

この文化的景観は、平成25年3月27日に「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」として国の重要文化的景観に選定されました。



左沢町場地区の元造り酒屋(会津屋清野家)



国選定重要文化的景観
「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」の範囲

面積: 255.9ヘクタール

くらしと風土に根差した文化的景観

文化的景観は文化財のカテゴリーの一つです。文化財保護法では「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの」と定められています。

なかでも特に重要な景観で保存の措置が講じられているものが、町などの申出にもとづいて重要文化的景観に選定されます。

内町・横町通りの初市の風景(左澤中央通り商店街)→



合わさり、重なった文化的景観

「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」は、川や山、町並みや文化などの様々な要素により形づくられています。「河岸集落」と「城下町」に起源をもつ要素やいろいろな時代に起源をもつ要素が含まれているところに特徴があります。

合わさった景観・・・複合性

河岸集落

左沢は、最上川が五百川峡谷から村山盆地に流れ出る場所で、江戸時代には最上川舟運の河岸がある港町でした。さらに、月布川の中・上流域で産する農産物・林産物が左沢で取引されて町が賑わいました。



米沢舟屋敷跡周辺の街並みと最上川



「羽州川通絵図」(山形県立博物館所蔵)に描かれた左沢の様子



最上川の地形と左沢(山形県『最上川流域の文化的景観調査報告書』より図を転載)

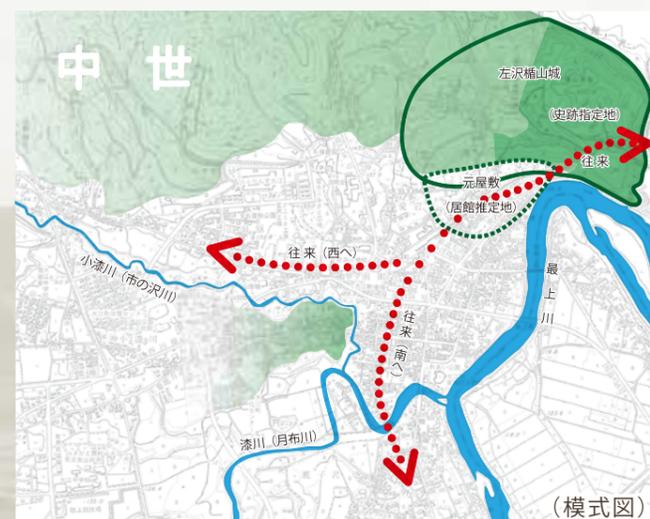
城下町

江戸時代の初めころ、酒井直次が小漆川に城を築いて城下町を整備しました。当時の主な道や地割が今の町並みに受け継がれています。

江戸時代から継承されている道(黄色)など→



左沢の町場の発展は、おおよそ中世・近世・近代・現代と4つの時代に分けることができます。

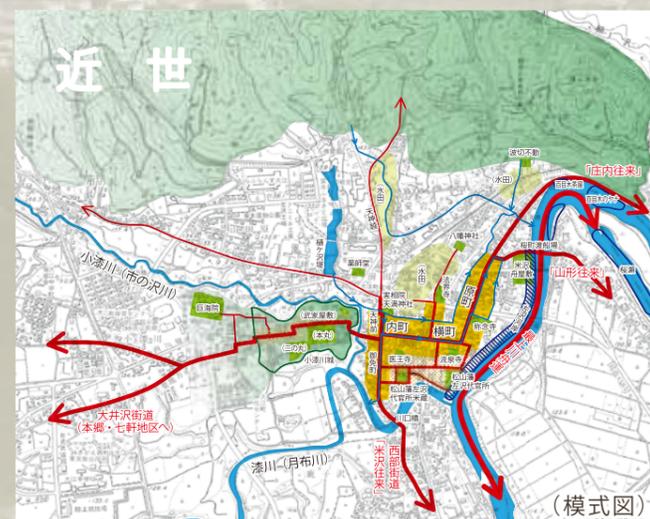


■ 正平年間 (1346~70) ころ
大江氏の一族左沢元時が左沢楯山城を築いたとされる。

■ 天正12年 (1584) 左沢楯山城が最上義光の支配下に置かれる。

左沢楯山城の時代【中世】

左沢楯山城は、最上川や檜木沢の崖に囲まれた要害の地である楯山に、交通の要衝を押さえるように築られました。楯山麓の「元屋敷」という地名は、城とともにあった町（居館）の所在を表すと言われます。

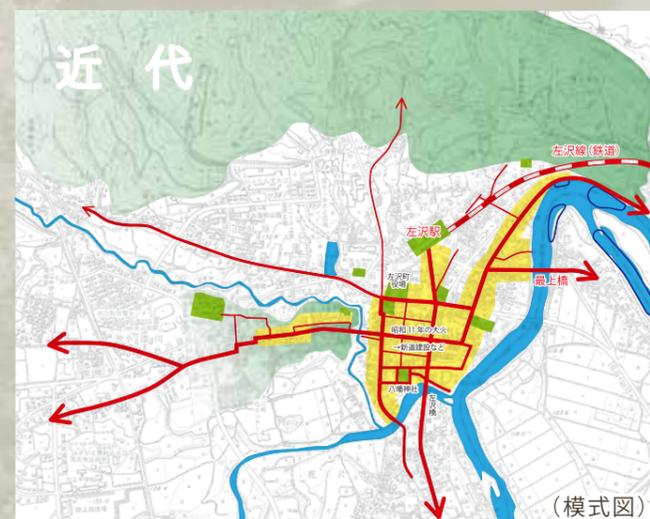


■ 元和8年 (1622) 左沢藩が成立。その後、藩主酒井直次が小漆川に城を築く。

■ 元禄6年 (1693) ころ
左沢に「米沢舟屋敷」が設置される。

小漆川城と最上川舟運河岸の時代【近世】

左沢楯山城が廃され小漆川に城が築かれました。今の市街地一帯に城下町が建設されて楯山麓から寺院が町に移転します。また、西村左衛門による開削を経て最上川舟運が置賜までつながり、左沢は米沢舟屋敷が置かれる重要な中継地点となってゆきます。



■ 明治16年 初代の最上橋が架けられる。

■ 大正11年 鉄道左沢線が開通、左沢駅が開業する。

■ 昭和11年 大火で左沢市街地で約450棟が焼失。

鉄道の開業と近代化【近代】

最上川の渡河が渡船から最上橋に変わり、山形-左沢間の鉄道が開通。最上川舟運の衰退など左沢を取りまく交通事情が変化します。また、たび重なる大火を経て、防災を意識した道路の拡幅や新設が行われ、今の基盤目状の町並みが形成されてゆきます。

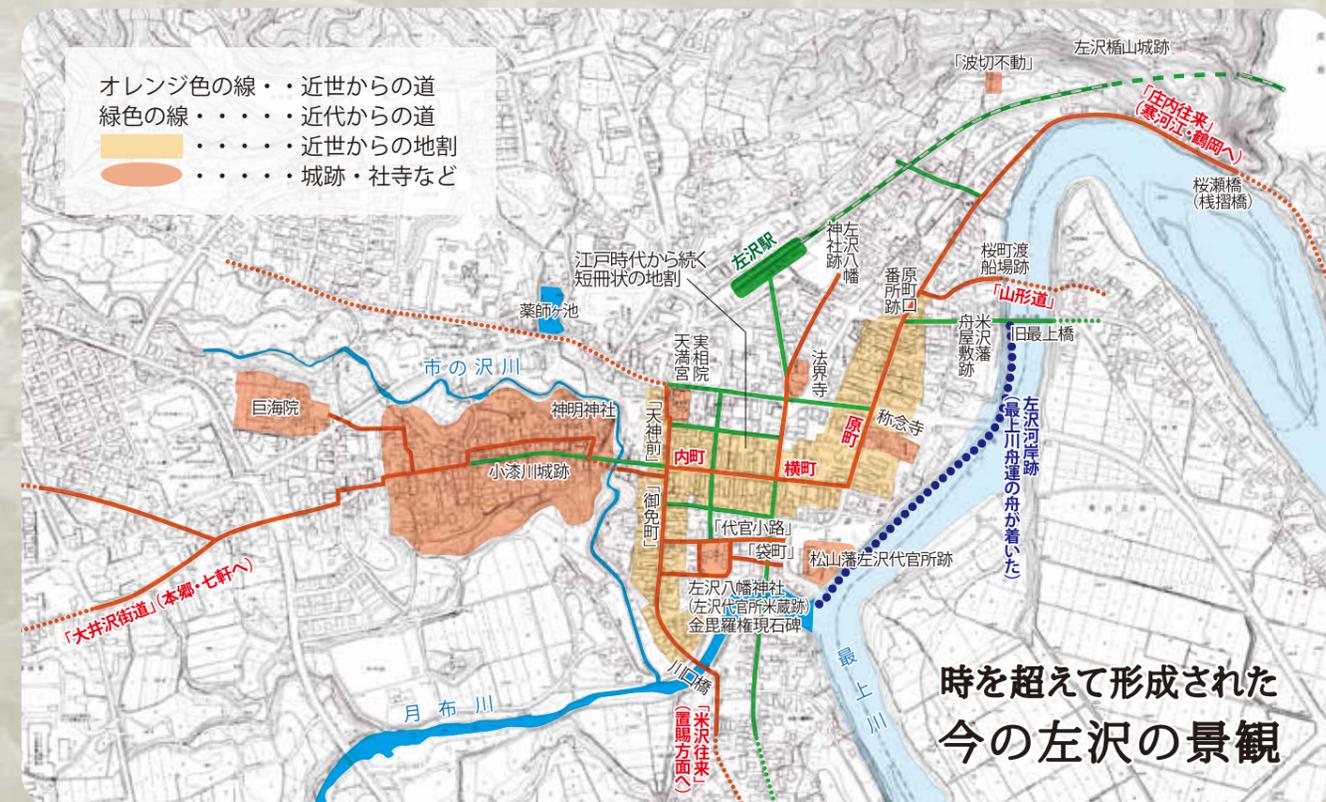
それぞれの時代の地名や町並みの一部が、時を超えて継承されて今の景観が成り立ちました。

絵図でみる近世左沢の町並み

- △ 町家
- △ 御家人
- 水路
- 道
- 道 (左沢町)
- 寺院



天保9年(1838)『左沢御領内御絵図』より作成
()内の文字は絵図の記載によらない注記



時を超えて形成された
今の左沢の景観

最上川と農山村とともに、町場の暮らし

全国とつながる最上川舟運と文化

最上川舟運は左沢の地に、全国とつながる流通・往来をもたらしました。舟運とともに繁栄した町場では、囃子屋台などが練り歩く祭礼が行われました。

← 百目木茶屋（昭和期）



百目木甚句(→)は「松前のにしん こんぶに たら かすべ」「京の友禅 博多帯」と、北前船が北海道に向かったときと上方へ向かったときの商品をも的確に分けながらうたいあげています。

百目木甚句
ハアア あてらざわ
御日市帰りに百目木の茶屋で
一ぱい飲んで眺むる最上川
向こうに見えるは何じやいな
上杉さんのお米蔵
どんと積んで下すは酒田船
ハアア あてらざわ
お米山と積んで帆を巻きあげて
今日も下るぞ酒田船
いつごろお帰り 風次第
荷物は何々 松前の
にしん こんぶに たら かすべ
京の友禅 博多帯
おみやげ話は たんとたんと



小鶴飼舟が航行する様子(菊地写真館提供)

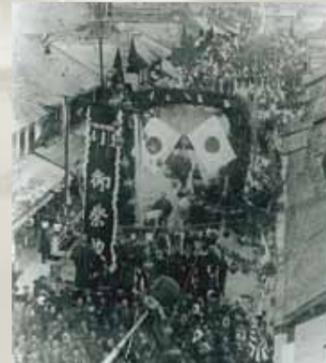
おおえの秋まつりでは、江戸時代から伝わる囃子屋台やシシ踊りが町を練り歩きます。



シシ踊り（おおえの秋まつり）



囃子屋台（おおえの秋まつり）



近代の囃子屋台(菊地写真館提供)

本郷・七軒地区との結びつき

左沢の繁栄には、特産物の青苧や薪、木炭などを生産した本郷・七軒地区との結びつきが欠かせませんでした。

← 青苧（大江町小新）

七軒地区十郎畑に所在した斎藤半助家では、表加賀屋と裏加賀屋と呼ばれた分家が左沢に店を構えて青苧を扱いました。青苧は、最上川舟運と西廻り航路を通して、敦賀や奈良、京都などへ運ばれたことが知られています。

左沢と本郷・七軒地区を結ぶ大井沢街道は「左沢市場道」と呼ばれました。七軒地区で生産された大量の木炭が左沢に運ばれ、左沢には炭や薪を扱う問屋が幾軒もありました。逆に左沢の商人は本郷・七軒地区へ醤油などを売りに行くことを「沢筋を登って商売させてもらった」と語ります。



大井沢街道沿いの追分石

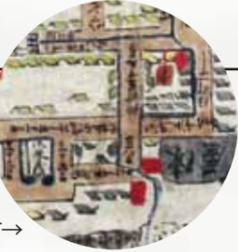


移築された旧斎藤半助家(現歴史民俗資料館)

町人と武士の共存

左沢の小漆川は月布川と市の沢川に囲まれた要害の地で、左沢藩の城が築かれました。左沢藩の廃絶後、左沢には庄内松山藩の代官所が置かれます。左沢領の政治的な中心地であった左沢では、町人と武士が住み分けながら共存していました。

「左沢御領内御絵図」拡大写真、「陣屋」左に「代官小路」の文字があります→



「左沢御領内御絵図」(右上)から、小漆川の城跡や代官所付近に武家、内町や横町・原町などの城下町に町人が暮らしていたことが分かります。今も地割や地名にその名残をみることが出来ます。



↑ 武家が住まいした「代官小路」



↑ 城が築かれた小漆川の台地。

←「左沢御領内御絵図」天保9年(1838、菊地一郎家所蔵)

黄色い家が「町家」、灰色の家が「御家人」を表します。水路や道、寺院、絵図中に記載してある文字は5ページ「絵図でみる左沢の町並み」の図をごらんください。

生業と人々の祈り

「波切不動」や「巨海院」などの寺社には、舟運の航行安全を祈った絵馬が納められています。商売繁盛を祈願した「市神様」や、天満神社の「雨乞い絵馬」も、生業に関わる人々の祈りを伝えます。

← 内町の天満神社に奉納された雨乞い絵馬（明治13年）



↑ 原町の市神様



元屋敷の「波切不動」に奉納された宝剣絵馬



巨海院金毘羅堂に奉納された小鶴飼船押絵馬、金毘羅は水上安全の神様(巨海院所蔵)

「波切不動」には、明治34年に左沢の船乗りが奉納したものなど、たくさんの宝剣絵馬が納められています。巨海院の金毘羅堂にも左沢の船持ちが明治19年に小鶴飼船の絵馬を奉納しており、左沢の船乗りたちによる航行安全の祈りを今に伝えます。

巨海院の手水鉢には「象頭山」の文字と、青苧を扱ったといわれる左沢商人13人の名前が刻まれています。金毘羅信仰に基づく「象頭山」の銘から、舟運を利用して上方や北陸へ輸送を行った商人たちが航海安全を祈った気持ちが伝わります。

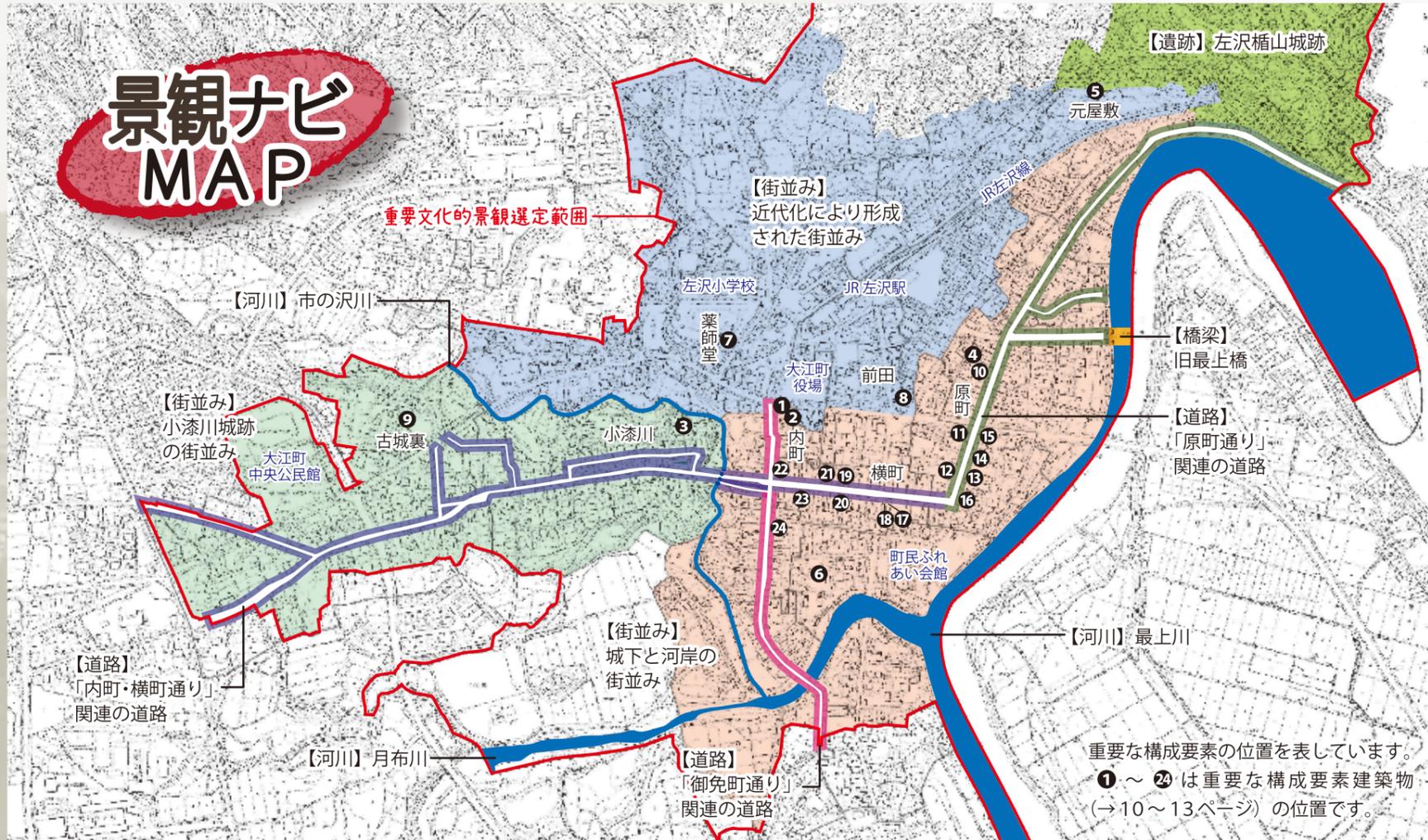


巨海院の手水鉢

くらしを語るもの

「最上川の流通・往来及び左沢町場の景観」にとって特に欠かせないものを「重要な構成要素」として特定しています。重要な構成要素は、河川・道路・橋梁・遺跡・街並み・建築物の6種類、35件です。

(平成25年3月現在)



「河川」は最上川と月布川、市の沢川、「道路」は江戸時代から継承される道やそれらと関連する道、「橋梁」は旧最上橋、「遺跡」は左沢橋山城跡、「建築物」は商店建築や社寺などが重要な構成要素として特定されています。



旧最上橋と楯山



御免町通りにぶつかる丁字路



最上川と月布川の合流地点



江戸時代からの道、原町通り



原町通りの店蔵

また、町並み全体が重要な構成要素です。江戸時代から続く通り沿いには商店建築が並びます。店蔵が並んだ原町通りでは舟運時代の繁栄がしのばれる、内町や横町、御免町では裏の通りから細長い敷地の奥に土蔵が並ぶ様子が見られます。



御免町の敷地奥に並ぶ土蔵



横町の敷地奥に並ぶ土蔵



内町・横町通りに並ぶ商店建築

短冊のような地割

小漆川城の城下町で、商人や職人などが暮らした内町・横町・原町では、通りの両側に短冊のような細長い地割が並びます。通り沿いに商店建築、その奥に住宅、そして土蔵（さらに畑）が並ぶ土地利用が特徴的です。



内町林武一郎商店の土地利用。通り沿いから順に店舗 - 住宅建築 - 土蔵が並ぶ。



まちなみのみどころ

左沢は幕末の弘化2年（1845）や明治39年など度々大火に見舞われました。なかでも昭和11年には、6月7日に市街地一帯の約450棟、138世帯（当時左沢の世帯数は539）が被災する大火が発生。その後の復興で道路の拡幅や新道の建設、建物の不燃化促進などが進められました。

昭和11年の左沢大火の様子（菊地写真館提供）



大火と復興



天満神社 **左沢内町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ①

寛永年中（17世紀前半）に酒井直次が左沢楯山城から現在地に移築し、寛政6年（1794）に社殿が再建されたと伝わります。近世には囃子屋台やシシ踊りが奉仕する祭礼、左沢領の天候祈願などが行われました。



實相院 **左沢内町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ②

左沢大江氏により開かれた真言宗の寺院で、近世、左沢楯山城麓の元屋敷から現在地に移転したと伝わります。すぐ西隣には天満宮の本殿・拝殿が接しており、神仏混淆の名残を感じさせます。



神明社 **左沢小漆川**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ③

社伝によれば寛永6年（1629）城の北東部にあたる現在地に、鬼門鎮護を祈願して造営されたと伝わります。現在は左沢13区に伝わる小漆川奴が奉納されています。L字型に曲がった参道の最も奥に神明造の本殿が建てられています。



医王寺薬師堂 **左沢薬師堂**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑦

薬師堂は江戸時代の「左沢絵図面」などにも描かれています。現在の建物は元禄年間の建築を、大正3年に寒河江の西根から移築したものと伝わります。医王寺は天台宗の寺院で薬師堂の別当を務め、江戸時代は内町に所在しました。



法界寺 **左沢前田**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑧

左澤山法界寺は浄土宗の寺院です。松山藩の藩主の菩提寺で、慶安元年（1648）に開かれました。正面の本堂は江戸時代の建築と推定され、当時の町の北端にあたる立地が江戸時代の町の広がり伝えます。



巨海院 **本郷己古城裏**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑨

巨海院は曹洞宗の寺院です。寛永4年（1627）に左沢楯山城の麓から小漆川の現在地に移転したと伝わる左沢藩の菩提寺で、酒井直次と夫人の墓が建てられています。金毘羅堂には航行安全を祈願する絵馬が納められています。



光明院 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ④

寛文8年（1688）に開山したと伝わります。原町通りから西に延びた参道の奥に大師堂が配されており、背後の道路は戦後開かれた道路ですが、沿道から望める四角錐屋根は、一つのランドマークとみることができます。



大瀧山不動尊 **左沢元屋敷**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑤

楯山麓の元屋敷に所在します。「波切不動」と呼ばれ、舟方衆の信仰を集めました。堂内には左沢の船乗りなどが奉納した宝剣額が複数納められています。創建年代は不明ですが、元禄年間ころから信仰があったようです。



八幡神社 **左沢横町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑥

左沢楯山城を築いたとされる左沢元時が城内に勧進し、寛文4年（1664）、酒井直次により前田に遷座したと伝わります。明治6年郷社となり、同16年に左沢代官所の米蔵があった現在地に移転しました。



金子家 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑩

木屋金子家は、庄内の酒田から五十集物や荒物を積み上げさせていました。宝暦7年（1757）以前に平塩（寒河江）から移ったと伝えられ、近世には町の検断、藩の御用達を勤めました。母屋や門が明治年間の竣工とされます。



ヤマト二菊地商店 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑪

ヤマト二菊地家は明治30年ころ下北山（大江町本郷）の山ト菊地家から原町に分家し、酒田にある本家支店との間で米や塩を取引していたといわれます。原町通りに面した商店の妻部分には4段に重なる梁が見られます。



清野家 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - ⑫

会津屋清野家は原町通り沿道最大級の商家で、近世には造酒屋を営み、華道と茶道の家元であったと伝わります。木造2階建てで明治期の竣工とされる母屋や大きな鬼瓦を頂く土蔵、江戸期の竣工とされる土蔵などが並びます。



五十嵐家 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 13

五十嵐家はかつて炭を販売しており、通りに面した部分は店舗であったといえます。明治41年竣工とされる母屋は、2階は漆喰仕上げで格子戸がつき、1階北側は下見板張りになるなど様々な意匠を持つ独特の建物です。



片桐家 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 14

片桐家の母屋は、近代、料亭「錦屋」として使用された建物で、明治36年の竣工とされます。元々店舗として使用されたものが仕舞屋となり住宅建築として使用されたもので、通りに面して妻面を見せる入母屋の屋根などが旧状を伝えます。



菊地家 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 15

菊地家は昔、青芋の取引業を営んでいて、青芋を仕入れて京都に運び、京都から生糸を買い付けて販売していたと伝わります。通りに面した店蔵は、1階が格子戸、2階が漆喰仕上げで明治期の竣工とされます。



高取家 **左沢横町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 19

高取家は約270年前に左沢へ移り、青芋などを集めて問屋へ卸していたと伝わります。明治16年から昭和末まで味噌・醤油の醸造業を営み、七軒地区などへ販売していました。母屋は昭和12年の建築です。



林武一郎商店 **左沢内町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 20

林家はかつて大工を生業とし、明治28年から八百屋、現在は酒屋を営んでいます。昭和11年竣工とされる店舗は切妻造り平入で、2階部分が大きくセットバックし、側面が下見板張りの典型的な近代商家の形式です。



山家家 **左沢内町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 21

山家家は江戸末期から明治初期に内町の検断を勤めており、天保12年(1841)、山形の国分寺薬師堂再建費を村山郡内の青芋・紅花商人に募った文書などに名前がみられます。明治5年には左沢の初代郵便局長になりました。



菊地糶屋 **左沢原町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 16

菊地糶屋は江戸時代から続く、西村山郡のなかでも歴史ある糶屋です。現在の当主で11代目と伝わります。敷地内には、奥に位置する味噌蔵を含めて2棟の土蔵があり、通り沿いの母屋は大火後の昭和11年の建築です。



上田家 **左沢横町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 17

上田家はかつてそば屋を営んでいました。現在の当主で16代目と伝わります。通りに面した母屋は大火後の昭和13年の建築で、昭和期らしい高い天井が特徴です。2階に配された高欄が、近代商家らしい華やかさを感じさせます。



安彦こうじ店 **左沢横町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 18

現代の当主は7代目で、19世紀初めころから糶屋を営んでいたと伝わります。店舗は角地に面して面取りをした独特の形状をしており、柱を真壁造で露出した2階外壁などが、古い商店建築の形式を伝えています。



旧廣野屋 **左沢内町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 22

廣野家は近世には呉服(衣料品)の販売を行っていたと伝わります。現代の建物に改修された店舗に続き、丸窓や楕形の欄間窓が配された母屋と切妻屋根の伝統的な形態を伝える土蔵が並びます。



薬の高取藻江堂 **左沢内町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 23

高取家が当地に薬局を開局したのは大正6年で、「藻江」は最上川の呼称からとったと言われます。店舗は昭和11年大火後のものと伝わる店蔵で、現在の新しいファザードは外壁部分だけが改修された「看板建築」の好例です。



富士屋 **左沢内町**

場所：p8 **景観ナビMAP** - 24

富士屋文治はかつて青芋商いに携わり、江戸時代から菓子製造業を生業としたと伝わります。現在も菓子の販売業を営んでおり、敷地手前から店舗・住宅・土蔵が並びます。池通り沿いの池を配した庭園がお屋敷の風格を呈します。



5 楯山

お城から里山、そして景勝地

楯山地区には寒河江大江氏の一族、左沢元時が築城したとされる左沢楯山城がありました。楯山は南が最上川、東と北が檜木沢に囲まれた要害の地で、自然の地形を巧みに利用した城が築られました。最上川に面した城跡南部には楯山公園があり、公園から愛宕山付近では大正期ころから「高い山」と呼ばれる行事が行われて賑わいました。



公園には最上川舟唄碑が建てられています。左沢は最上川舟唄発祥の地といわれます。山形県を代表する民謡「最上川舟唄」は、昭和の初めころ左沢出身の後藤岩太郎が編曲しました。



楯山公園からは大江町の町名の由来でもある最上川の大江(たいこう)たる様子が眺められます。

楯山地区全景 (赤い線は史跡左沢楯山城跡の範囲)



山城跡の山頂にあたる「八幡座」では、発掘調査で2間四方の建物跡が見つかりました。写真では人が建物の柱を表しています。



左沢楯山城跡の「千畳敷」から眺めた最上川。「千畳敷」では建物の跡が見つかりました。



城の堀切跡。東西に延びる尾根を断ち切るように造られた堀切の地形が残ります。

「日本一公園」

かつての楯山公園 (菊地写真館提供)

楯山公園は「日本一公園」と呼ばれています。昭和8年の天神越街道改修工事の際、左沢の工事関係者がここからの眺めを日本一だと称えたことから「日本一公園」と呼ばれるようになったと伝わります。



株立したコナラ

楯山では薪炭林に利用したことをうかがわせる株立したコナラや、身から蠟が得られたウルシ、キリヤコウゾなどの有用樹木をみることが出来ます。また、昭和期の地形図では桑畑の地図記号が布しており、山が利用されたことがわかります。

山の利用と植物

6 最上川

歴史的な生活・生業の場

左沢の河岸では、旧最上橋たもとの桜町渡船場から月布川合流点周辺に舟が着いたと言われています。左沢は五百川峡谷の出口で、大型の艀舟から峡谷部を上る小艀飼舟に転換する中継地として重要な役割を果たしました。また、桜町渡船場跡や旧最上橋、景勝地とされた柏瀬、百目木のヤナなどは、左沢の生活が最上川と密接に関わっていたことをうかがわせます。



川の中に丸い掘り込みが並ぶ百目木のヤナ跡

(「ヤナ跡」、「用のハゲ」、「柏瀬」の位置は右の図をごらんください)



川と山頂で比高差が約 150m ある絶壁「用のハゲ」。江戸時代の名所とされ、山頂の厳島神社には水上安全を祈る人々の参拝がありました。(菊地写真館提供)



対岸の地層が最上川に映る様子が柏の葉のようであることから「柏瀬」と呼ばれました。(菊地写真館提供)



舟道の跡

大江大橋の親柱

百目木のヤナ

ヤナの様子 (菊地写真館提供)

最も古く百目木のヤナがかけられた年代ははっきりしませんが、史料で最初に知られるのは安政5年(1858)です。ヤナは昭和37年まで営業され、百目木茶屋などとともに左沢の名所として賑わいが創出されました。



「米沢藩陣屋絵図」宝永8年(1711) 海野家所蔵

米沢舟屋敷

江戸時代には、現在の旧最上橋のたもとに「米沢舟屋敷」が置かれ、舟運の荷物の一時保管庫としての役割を果たします。その付近には荷物の積み下ろしに従事した丁持ちなどが居住しました。